



道 建 労 協 機 関 紙



Council of Road Construction Worker's Unions(C.R.U.)

道路建設産業労働組合協議会

〒104-8380 東京都中央区京橋1-19-11 (NIPPO 労働組合内)

電話03 (3563) 6744

URL: <http://www.doukenroukyou.com>

＜第26回定期大会報告＞

2011年7月19日(火)に日暮里のホテルラングウッドにて第26回定期大会が開催されました。今大会での代議員の人数は、加入組合毎の規程人数と地方協議会議員の4名を合計した総数33名であり、内31名が出席したことにより大会の成立が確認されました。

冒頭、松本議長は次のように挨拶をし、経営環境の更なる悪化を懸念しながらも魅力ある道路建設産業の実現を訴えました。

「世界経済危機から2年が過ぎようとしており、また、わが国における歴史的な政権交代から間もなく1年を迎えようとしている。この間のわが国の情勢を振り返ると、経済は徐々に回復しつつあるが、国際競争力の回復についてはやや遅れが目立つ。一方で建設業界に目を向けると、今年度は政権交代による公共事業の大幅削減や、世界経済危機以降の民間設備投資の遅れなどから厳しい受注環境が予想される。更に我々が身を置く道路建設業界を見ると、昨年度はアスファルト価格を合材価格に転嫁できた事が功を奏し、前政權の補正予算の影響等もあって、各企業は総じて増益となった。しかし、道建設労協各単組の企業にとって昨年度の業績は瞬間最大風速のようなもので、今年度はそのリバウンドに苦しむ年となるだろう」。

来賓は、日建協(福島玲司議長)・建設連合(星野康幸委員長)・全電工労連(大山恭史副議長)・長谷工グループ労働組合(久井俊樹委員長)・通建連合(藤井淳議長)が出席され、日建協の福島玲司議長より祝辞を頂きました。

その後、議事に従い2010年度経過報告・2011年度運動方針(案)・2011年度予算(案)が各担当役員より説明があり、全ての議事が満場一致で承認されました。

役員選挙では、議長の松本晃氏(NIPPO労組)・事務局長の島野啓志氏(前田道路労組)・会計監事の吉屋圭雄氏(大成ロテック社組)が退任し、新議長には山下剛氏(NIPPO労組)・新事務局長には服部栄三氏(前田道路労組)・新会計監事には矢嶋宇之氏(大成ロテック社組)が就任しました。

退任された中央執行委員並びに会計幹事の皆様、大変お疲れ様でした。



2011年度の取り組み

2011年度の始まりに当たり一言ご挨拶申し上げます。

昨年度を振り返ってみますと、一昨年より緩やかに持ち直しつつあった景気は、今年3月11日の東日本大震災発生後、急速に落ち込みました。この国難とも言える大震災から半年が経過し、日本経済は徐々に持ち直しの動きを示しつつ、今年度後半から景気は回復基調に転じるとみられています。しかしその一方で、消費の動向・復興需要の規模と時期など不透明な要因も多々あり、加えて海外要因による円高の進行など懸念材料も多く存在します。

このような社会情勢の中で、私たち道建労協は組合員の代表組織として「働きがいのある職場の環境づくりと豊かな生活の実現」を目指して、労働問題の改善に取り組んでいます。しかし「一人あたりの業務量の多さ」等の問題から組合員の時短や休日取得は思うように進まず「ワーク・ライフ・バランス」は順調には浸透していない状況です。私たち道建労協はこの問題に警鐘を鳴らし、各単組の労使間で解決の糸口を見つめる活動を行っています。更に一方で組合員の心の中にある、時短や休日勤務に対する「慣れ」や「諦め」に対しても様々な「場」を通じて訴えていき、少しずつでも改善できるよう活動していきます。

2011年度の主な活動方針は 1.「組織活動」2.「産業政策活動」3.「教宣活動」の3項目としました。1つ目の「組織活動」では、賃金・及び労働条件の改善など、各単組の内情を検証し、引上げを目指す活動を行います。更にセミナー開催や地方活動にも注力していきます。2つ目の産業政策活動では、関係団体との交流や友好組織との連携に取り組むとともに、「土曜閉所推進運動」を実施し、11月、6月を強調月間として取り組んでいきます。3つ目の「教宣活動」ではリニューアルしたホームページの更なる充実を目指し、組合員の「ワーク・ライフ・バランス」に対して背中を押す情報を発信していきたいと考えております。また、土曜閉所強調月間等の時期に併せてフォトコンテストを開催し、加盟単組組合員のみならずが気軽に参加できる企画となるよう取り組みます。以上が今年度の主な活動方針です。

現在、私達が抱えている問題は、労働時間、休日所得を始めとして数多くありますが、各単組間の情報交換を積極的に行い、道建労協を各単組と組合員の皆さんにとってより価値のある組織にしていきたいと考えておりますので、皆様方のより一層のご理解とご協力のほどをよろしくお願い致します。

(議長 山下 剛)

「インフラ整備」

ここ最近、土木関係、特に道路関係を専攻する学生が少なくなっている話を耳にしました。
「土木業界、道路業界には魅力がない。」というのが主な理由です。
でも、果たして道路建設業界が「魅力のない」産業なのでしょうか？

先日、ある会社の社長さんがこんな事を言っておられました。

「今回の東日本大震災において、インフラ復旧の第一段階として東北道は震災からわずか数日で仙台まで開通させた。福島原発の放射能漏れ事故についても原発からの緊急な道路の開通が出来なければ、復旧のための資材搬入車両や原発の冷却用ポンプ車だつて走れなかった。もっとマスコミも道路建設産業についてアピールすべきだ」。

確かに我々の道路建設産業についてもっと見直されるべきではと感じます。

阪神淡路大震災や新潟県中越地震の時もそうでしたが、高速道路や国道等のインフラ復旧を真っ先に進めたからこそ、比較的早急な復旧・復興が可能となったはずなんです。

確かにマスコミからすれば報道するには地味な内容なのであまりアピールしないのかもしれませんが、道路建設産業についてもっと「いい意味での報道」をされても良いのではないかと思います。

逆に我々も今回の震災復旧を機に、積極的に道路建設業界を「アピール」してゆく事で、世間一般に対する道路建設産業のイメージを変えることが出来るはずなんです。

自分も、この道路建設産業とは、「誇り」を持って出来る仕事だという事を、組合活動を通じてアピールしてゆければと感じました。

大林道路職員組合
高島 力

第26回労使セミナー

平成23年1月19日、ホテルラングウッドにおいて第26回労使セミナーが開催されました。組合側からは、建設産労協加盟団体である建設連合・全電工労連・当協議会の各単組より27名が出席し、企業側からは、道路舗装会社で構成される総務研究会会員の総務・人事部門責任者並びに道建協・日合協・新聞各社を併せた28名が出席し、総勢55名の出席を頂きました。

今回は、人材活性プロデューサーの夏川立也先生を招いて「職場の雰囲気を良くする3つの法則」と題した講義を行いました。

→『職場の雰囲気を良くする3つの法則』

その1：雰囲気を作るスパイラルの法則

「職場の雰囲気」を良くするためには次の①→②→③→④を繰り返し、スパイラルを意識することが大切です！

- ① 行動が本人、周囲の感情をコントロールする（プラスの行動が周囲にプラスの感情を生む）。
- ② 感情が空気（雰囲気）を作る（プラスの感情が一体感を生む）。
- ③ 空気（雰囲気）が感情を支配する（プラスの感情が伝わっていく）。
- ④ 感情が行動につながる（プラスの感情がプラスの行動につながる）。

※プラスの行動とは・・・「相手をほめる」「感謝の言葉を言う」「相手の為にできる事をする」など、
→ 最初は意図的でも3週間続けたら「自分のもの」になる。

その2：予測と期待の法則

- ① 人は常に相手の行動を予測している。だから…
- ② 相手が何を予測（期待）しているかを考えて、いい意味で期待を裏切ろう（相手の予測を上回ろう）！すると…
- ③ 相手との信頼関係が築かれていく（自分の応援団ができていく）！
まずは自分が行動！ 1人が動けば周囲も変わる！！

その3：5つの「S」の法則

★コミュニケーションを上手にとる秘訣は5つの「S」で覚えよう！！

- ① SPECIAL：相手が特別だと思わせる！
- ② SPEED：相手への対応は素早く！
- ③ STORY：ストーリーがつけば動きやすくなる！
- ④ SIMPLE：わかりやすく伝える！
- ⑤ SMILE：笑顔で接する！

※職場でのコミュニケーションや仕事での接客でも意識してやってみよう！



地協東日本大震災 被災地区現場訪問

道建労協では地方協議会の無い四国・中国・九州・北陸・東北の5つの地域において地域交流会を毎年開催していましたが、3月11日に発生した東日本大震災の影響により北陸と東北の地域交流会を中止しました。そこでその代わりとなる活動として北陸地区の関連団体及び加盟単組の支社訪問を行うとともに（P4参照）東日本大震災の被災地区現場訪問を実施しました。

被災地区現場訪問は6月20日から24日の5日間で茨城、福島、宮城、岩手の4県、計28ヶ所の事業所・営業所・工場を訪問し栄養ドリンクをお贈りしました。

現場訪問時に現状での問題点等の意見聴取をしておりますので、一部ご紹介致します。

現場訪問時の意見聴取(抜粋)

- 震災直後から3か月間作業している。3か月が限度だ。
 - 過酷な現場なので人員のローテーションをすべき。下請けの社長もお願いしてきた。
 - 3か月が過ぎ緊急事態も過ぎたので、これからは休日をいれながら片付・復旧を進めていく。
 - 被災者の方々を見ていると「1日でも早く」と考え、ついつい長時間労働や休日出勤をしてしまう。
 - 沿岸部の復旧工事よりも福島第一原子力発電所周辺の復旧工事への対応が心配だ。
- ※この他にもたくさんの意見を頂いております。（その他の意見は道建労協HPに記載されております）

現場事務所訪問時の写真



NIPPO 宮古出張所訪問



大成ロテック いわき事業所訪問



大林道路 宮城営業所訪問



前田道路 一関営業所・合材工場訪問

スケジュール

第26回定期大会にて承認されました年間スケジュールを紹介致します。内容については前年とほぼ同じであります。活動の経緯、報告については随時ホームページや機関誌などで紹介致します。

2011年度道建労協年間スケジュール

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
各種会議	三役会	中執	単組代表者	三役会	中執	三役会	中執		三役会	三役会	単組代表者	三役会
大会・企業訪問	単組大会	単組大会	単組大会 企業訪問	単組大会								定期大会 単組大会
研修会・セミナー						労使 セミナー						単組支援 セミナー
地協活動		(定期総会)	(定期総会) 地域交流会	(定期総会)		地協訪問			地協訪問		地域交流会	地協 代表者
春闘への取組			年齢構成 調査	調査時報			基本方針	情報交換	情報交換	情報交換		
産労懇		運営委員会 土開共同プレス	総会				運営委員会			運営委員会 土開共同プレス		運営委員会
機関紙		82号					83号					
ポスター				土曜閉所							土曜閉所	
アンケート					土曜閉所							土曜閉所
フォトコンテスト				休日写真	クリスマス						休日写真	
その他	道建協 日合協		道建協 日合協 日合協(地方)			道建協 日合協				道建協 日合協	日合協 (地方)	

第26回単組支援セミナー

平成23年7月19日、ホテルラングウッドにおいて第26回定期大会に引き続き単組支援セミナーが開催された。

道建労協では、時代のニーズに即したテーマでの実施を検討しており、今回は原点回帰、「労働組合」をテーマとしてセミナーを開催しました。

今回のセミナー講師は、社会派落語では上方落語界きっての巧者と言われる桂福車師匠をお招きし、「21世紀は組合だ」と題した講演をお願いしました。桂福車師匠は過去に労働組合経験があり労働組合の大切さを自身が感じておられ、落語家となられてからは、作品を通してその意味を訴えかけて下さいます。専門知識と笑いを巧妙に織り交ぜたこの一席、参加者の笑顔と今後の組合活動へのヒントをもらったような、まさに「一石二鳥」のセミナーとなりました。



地協活動報告



北陸地区

北陸地区における関係団体・加盟単組企業訪問



道建労協では毎年6月に東北・北陸地区において地協のない地域での交流会を開催しておりますが、今回は東日本大震災の影響により中止することとなりました。それに伴い、北陸地区につきましては6月3日に道建協・日合協、加盟単組企業への訪問に切り替えました。6月が土曜閉所強調月間であることから訪問先へは、協力要請を行うとともに意見交換を行いました。どの企業も社長通達や労働時間等設定委員会等からの通達が出される等土曜閉所推進には協力的であり、何とか改善が進むよう工夫していただいている、そんな印象を受けました。

道建協北陸支部 渡辺事務局長様、(株)NIPPO 石川執行役員北信越支店長様、前田道路(株) 鈴木執行役員北陸支店長様、大成ロテック(株)北陸支社 渡邊支社長様、大林道路(株)新潟営業所 遠藤浩二工事長様、そして各企業の担当者様におかれましては、お忙しい中ご丁寧に対応していただきました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

本部 前事務局長 島野 啓志



関東地協



4年ぶりに関東地協意見交換会開催！



2011年7月23日(土)に東京都内の品川プリンスホテルにおいて関東地方協議会の意見交換会が開催されました。

この意見交換会は4年ぶりの開催となります。

今回のテーマは「時短について」です。

道建労協本部より私(高島)と静中央執行委員、関東地協からは渡辺委員長をはじめ地協幹事の方10名、各単組の代表者の方々11名、合計23名により各単組における時短や土休への取り組み、現在の労働環境、理想の職場等について意見交換を行いました。

今回の意見交換会においては、各単組での時短に対する考え方や具体的な取り組みの事例について色々聞くことが出来、各単組の皆さんにとっても大変参考になったのではないかと思います。

また、理想の職場としては「職場の雰囲気がよい事」という意見が一番多く上げられておりました。

「職場の雰囲気」が良ければ自分たちの言いたいことも言いやすいし、「時短」についてもおのずからついてくるものであり、逆に「職場の雰囲気」が悪いと言いたいことも言えなくなってしまう「時短」についても結局前には進まなくなってしまうという事です。

各単組の皆さんの本音も聞くことが出来、非常に有意義な意見交換会になったと思います。

関東地協の渡辺議長はじめ参加された関東地協の幹事の皆さん、どうもお疲れ様でした。

本部副議長 高島 力

ホームページのご紹介

道建労協では、加盟単組組合員への更なる情報発信ツールとして、ホームページを開設しております。本部や地協の活動状況の報告に加えて、旬な話題・旬な情報を随時発信していく所存です！皆さん、奮ってアクセスして下さい！

<http://www.doukenroukyou.com>

検索

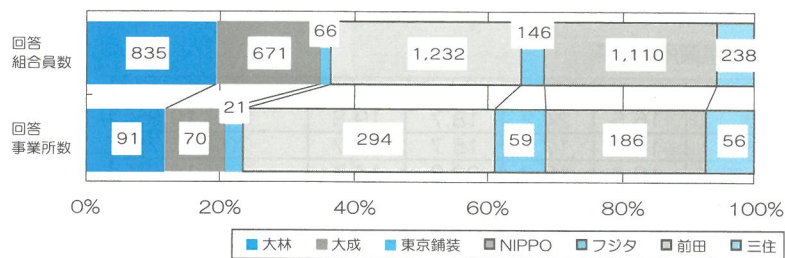


土曜閉所推進運動アンケート結果(2011年6月)

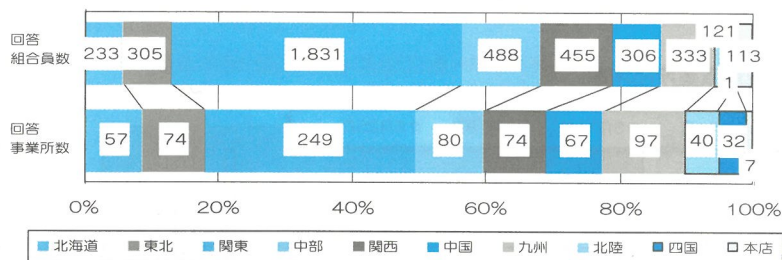
道建労協では、建設産労懇（建設産業労働組合懇話会）の仲間と共に毎年6月と11月を事業所の土曜閉所推進運動強調月間と位置付けて、総労働時間の短縮に向けた運動を展開しております。今回は『笑顔で働き 笑顔で休む 土曜閉所』という標語が記載されたポスターを道建労協加盟単組の各事業所に配付して閉所と休日取得を呼びかけました。また、例年同様道建労協に加盟する組合の企業や関係団体等に要請書を提出し、土曜閉所推進運動への協力要請をしました。今回も皆様のご協力の下、道建労協加盟単組 全事業所を対象にアンケート調査を実施しましたので結果をご報告させていただきます。10年6月は86.0%にまで到達いたしました回収率が、上がるどころか大幅に下がる結果となり79.7%にとどまりました。

（今回は残念ながら震災の影響もあったかもしれません。）

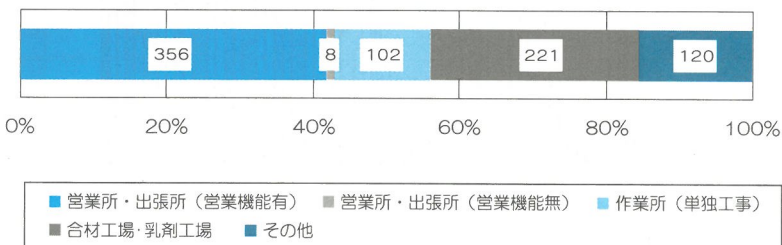
単組別の回答組合員数と事業所数



地域別の回答組合員数と事業所数



事業所の形態



道建労協加盟単組 回収率

回収率	大林道路	大成ロテック	東京舗装	NIPPO	フジタ道路	前田道路	三井住建	全 体
2009年6月	74.3%	78.3%	96.5%	57.3%	60.2%	64.2%	98.4%	67.6%
2010年6月	86.6%	83.9%	83.5%	83.3%	95.3%	86.8%	100.0%	86.0%
2011年6月	94.4%	89.5%	83.5%	73.4%	88.5%	70.4%	92.2%	79.7%
平均	85.1%	83.9%	87.8%	71.3%	81.3%	73.8%	96.9%	77.8%

今回は過去5年間にわたる調査結果の推移を示してみました。この数値は先日の日本アスファルト合材協会との意見交換会でも使用したのですが、閉所率・休日取得率ともに各単組においては波があるものの全体的には大きな変化はなく、土曜閉所並びに6月休日取得が思うように浸透していない現状を示しており、少し残念な結果となりました。

6月土曜閉所強調月間 単組別事業所閉所率 実績推移（過去5年）

	2007	2008	2009	2010	2011
大林	21.4%	24.4%	21.5%	21.9%	19.8%
大成	20.4%	13.9%	22.1%	27.2%	15.7%
東京舗装	23.0%	31.3%	26.0%	52.9%	19.0%
NIPPO	30.3%	30.7%	30.8%	36.5%	31.4%
フジタ		34.4%	41.7%	34.8%	36.0%
前田	15.8%	12.9%	13.1%	12.6%	11.2%
三住	23.0%	27.2%	38.8%	53.6%	51.3%
単組合計	24.1%	25.0%	25.6%	29.9%	25.2%

6月土曜閉所強調月間 単組別組合員休日取得率 実績推移（過去5年）

	2007	2008	2009	2010	2011
大林	56.2%	54.9%	52.7%	53.2%	54.0%
大成	56.1%	49.2%	57.2%	45.9%	47.8%
東京舗装	19.6%	33.7%	52.6%	73.6%	59.1%
NIPPO	54.5%	65.6%	65.0%	56.1%	50.4%
フジタ		51.6%	53.1%	42.0%	46.6%
前田	55.7%	57.7%	58.6%	49.7%	51.4%
三住	44.0%	48.9%	67.3%	70.0%	81.2%
単組合計	49.5%	51.6%	59.4%	52.9%	52.7%

全国の閉所率は25.2%と昨年6月より約4.7%悪化、09年度の水準に戻ってしまいました。一方休日取得率をみますと全体で52.7%と昨年52.9%とほぼ同水準となりました。休日取得率は三井住建道路労働組合が81.2%と群を抜いて高く、他の組

合は50%内外という結果になりました。特に大成ロテック社員組合・フジタ道路職員組合が40%台という低い結果となっています。三井住建道路労働組合の皆さんにはどのような工夫をされているのか改めてその取り組みを聞いてみる必要があります。出来ることは他の単組でも是非取り入れるべきでしょう。地域別事業所閉所率をみますと四国（40.6%）・北海道（36.4%）が比較的高く、関西（9.8%）・中国（22.4%）・中部（23.1%）は低くなっています（今調査における東北地区の数値が低いことにつきましては、止むを得ない状況にあると言えるため、ここでは触れません）。地域別組合員休日取得率は、前回唯一70%以上を誇った四国地区が64.2%と落ち込みましたが、北海道は前回より大幅に改善され64.7%、その他の地域も50～60%台という結果になりました。

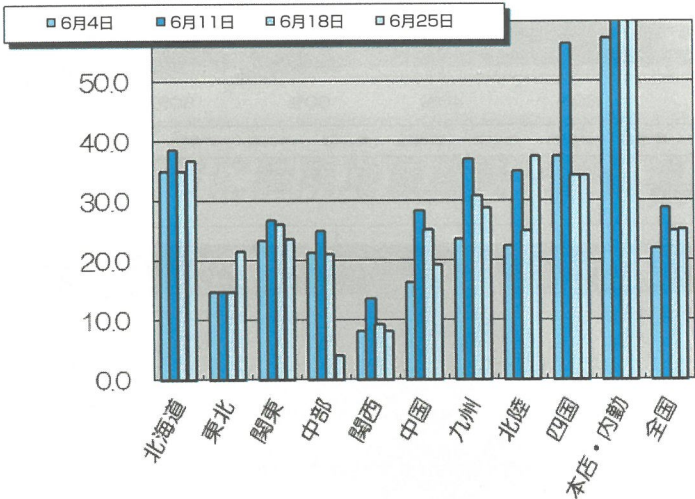
地域別事業所閉所率

	6月4日	6月11日	6月18日	6月25日	事業所数	平均閉所率
大林	16.5	24.2	18.7	19.8	91	19.8%
大成	14.3	17.1	15.7	15.7	70	15.7%
東京鋪装	19.0	19.0	23.8	14.3	21	19.0%
NIPPO	28.9	35.0	29.6	32.0	294	31.4%
フジタ	28.8	42.4	37.3	35.6	59	36.0%
前田	6.5	15.6	12.4	10.2	186	11.2%
三住	50.0	51.8	51.8	51.8	56	51.3%
単組合計	22.0	28.8	25.0	25.1	777	25.2%

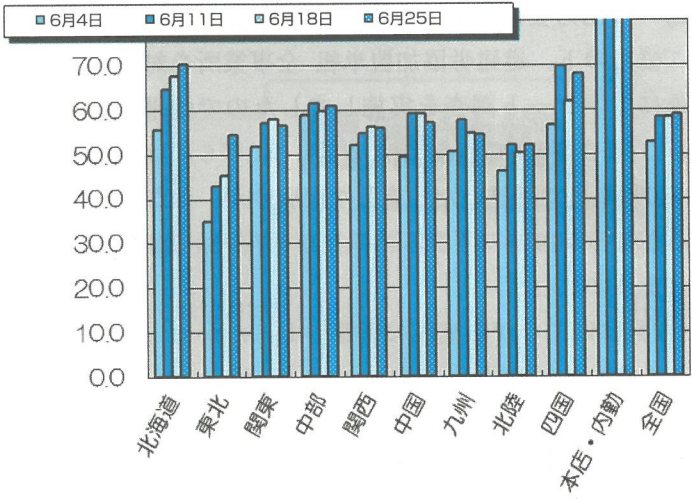
地域別組合員休日取得率

	6月4日	6月11日	6月18日	6月25日	事業所数	平均閉所率
大林	52.3	54.9	51.7	56.9	835	54.0%
大成	44.3	50.2	47.8	48.9	671	47.8%
東京鋪装	48.5	63.6	63.6	60.6	66	59.1%
NIPPO	48.1	50.6	50.6	52.1	1232	50.4%
フジタ	39.7	54.8	47.9	43.8	146	46.6%
前田	42.7	52.4	57.6	53.1	1110	51.4%
三住	80.3	81.5	82.4	80.7	238	81.2%
単組合計	48.4	53.9	54.0	54.2	4298	52.7%

地域別事業所閉所率

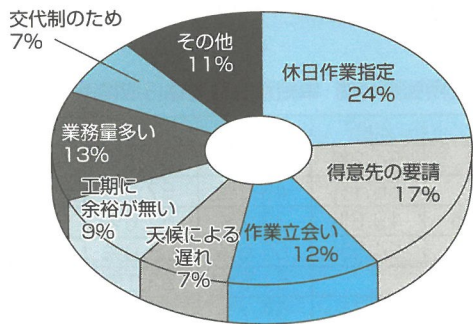


地域別組合員休日取得率

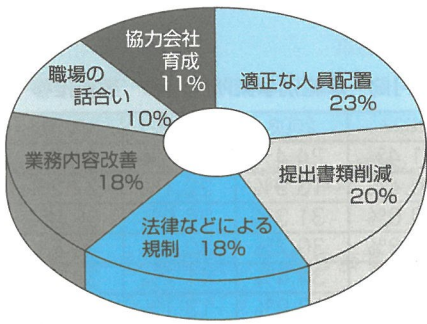


閉所が出来なかった理由並びに休日取得・時短推進に望むものは、3年連続で同じ結果となりました。これらの結果を基に道建労協では各企業のトップの方々へ資料を示し、現状の説明と総労働時間の短縮に向けた土曜閉所・休日取得の推進への協力要請を引き続き行うとともに、厚労省・国交省、道建協・日合協へも定期的な訪問により土曜閉所・休日取得への理解と協力を訴えていきます。

事務所閉所できなかった理由



休日取得・時短推進に望むもの



業務多忙の中、アンケートにご協力いただきました各組合員の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、今後の活動へのご理解ご協力も併せてお願い申し上げます。



新年度 役員紹介

平成23年7月19日開催の第26回
定期大会で下記の方々が新役員とな
りました。



山下 剛
議長
(NIPPO労働組合)



高島 力
副議長
(大林道路職員組合)



和久 康郎
副議長
(大成ロテック社員組合)



服部 栄三
事務局長
(前田道路労働組合)



静 正人
中央執行委員
(三井住建道路労働組合)



日暮 猛
中央執行委員
(フジタ道路職員組合)



野口 光博
中央執行委員
(東京舗装工業社員労働組合)



有木 秀龍
中央執行委員
(NIPPO労働組合)



河合 努
会計幹事
(大林道路職員組合)



矢嶋 宇之
会計幹事
(大成ロテック社員組合)



退任役員紹介

第26回定期大会をもちまして、下記の方々が退任されまし
た。

今後の各氏のご活躍を祈念するとともに、当協議会における
重責を全うされたことに感謝の意を申し上げます。



松本 晃
(NIPPO労働組合)
任期：平成21年度～平成22年度
役職：議長



島野 啓志
(前田道路労働組合)
任期：平成20年度～平成22年度
役職：事務局長



吉屋 圭雄
(大成ロテック社員組合)
任期：平成20年度～平成22年度
役職：会計監事

物知りクイズ

今回のPAVEでは6月度土曜閉所推進運動アンケートの集計結果をお知らせいたしました。土曜閉所推進運動は総労働時間の削減を目的としております。道建労協はこの活動を始めとして、「ワーク・ライフ・バランス」に関する取り組みを継続して考えていきます。

ということで、今回の物知りクイズのテーマは「労働」と「休日」です。

- Q1** 労働時間について、日本で最初に規制を設けた法律は工場法（1916年施行）ですが、規制の対象は「十五歳未満ノ者及女子」だったそうです（それ以外は無制限??）。それでは、この法律で定められていた「十五歳未満ノ者及女子」の1日あたりの就業時間と1月あたりの休日は、それぞれ何時間・何日だったでしょうか。
1. 8時間・6日 2. 10時間・4日 3. 12時間・2日 4. 14時間・3日
- Q2** 現在の国民の祝日の日数は15日ですが、その年代によって祝日の日数は異なります。さて、1950～1965年頃の祝日の日数は何日だったでしょうか。
1. 7日 2. 9日 3. 10日 4. 11日
- Q3** 週休2日制の導入や国民の祝日の増加により休日日数は確かに増えましたが、平日の労働時間はなかなか減少しません。総務省の調査によれば、1976年の平日1日当たりの平均労働時間が8.02時間なのに対し、2006年の労働時間は9.12時間となっております。休日が増えた分、平日にしわ寄せがきているともいえるのではないのでしょうか。さて、ここで問題です。ここ数年来、長時間労働が問題視されておりますが、2006年時点での平日1日当たりの労働時間が10時間以上の労働者の割合は全体の何%だったでしょうか。ちなみに1976年時点では17.1%でした。
1. 42.7% 2. 35.4% 3. 31.0% 4. 8.2%
- Q4** 仕事の疲れは睡眠で解消するのが一番です。東京大学のある教授の分析によれば、過去30年での週当たりの平均睡眠時間は、男性で4時間、女性で3時間、短くなっているようです。さて、ここで問題です。2006年に行われた法政大学の調査によれば、男性正社員の日曜日の平均睡眠時間は一体何時間だったでしょうか。ちなみに女性正社員の日曜日平均睡眠時間は8.05時間でした。
1. 7.04時間 2. 7.22時間 3. 7.81時間 4. 8.51時間

物知りクイズ当選者

PAVE第81号「物知りクイズ」は、新年1月発行だったので「兎年」にちなみ「うさぎ」に関係する問題が出されました。回答時に貴重なご意見を寄せて頂き誠にありがとうございました。今後も皆様にご愛読いただくPAVE作成の参考にさせていただきます。今回も当選者多数の抽選とさせていただきます。また、当選者の粗品の受け渡しについては、各単組の組合より送付させていただきます。

当 選 者

増子 克江 （大林道路職員組合）
小松壮太郎 （大成ロテック社員組合）
泉山 匠 （NIPPO労働組合）
佐藤 美穂 （前田道路労働組合）

服部 珠実 （大成ロテック社員組合）
菅野 公正 （NIPPO労働組合）
田谷 奈緒子 （前田道路労働組合）

○組合員からの貴重なご意見（一部）

・よかった点は、今年の干支にちなんだ物知りクイズの出題内容にあったと思います。いつもは、本機関誌は配られたら大抵机の右端に他の書類とともに重ねておきクイズの締め切りが過ぎた頃に又見る・読むといったことを繰り返してありました。製作している人には誠に申し訳ないが余り興味を示さない機関誌であると思われます。今回このクイズに挑戦して 自身の常識の無いことに気づかされました。また、久々に一生懸命 答えを探し・調べもしました。次回もまた難しい問題を提供してください。たのしみにお待ちしております。（NIPPO労働組合の組合員の方より）

・本社にいと週末はお休みが当然と思ってしまいますが、今回の土曜閉所推進運動アンケートをみて、閉所率の少なさに驚きました。100%になれる日を願っています。（大成ロテック社員組合の組合員の方より）

・北海道地協の活動（総会・レク）にも何度か参加させていただきました。土曜閉所の記事は衝撃的でした。当単組の数字がいちばん悪く、「事業所を閉所していない」、「休みが取れていない」現状が浮き彫りになりました。

建設業全体が厳しい時代が続いているなかで、「サラリーもない」、「やすみもない」、「未来がない」、ないないづくしでは仕様がありません。これからの組合活動は、そんな現状を改善すべく、知恵を出し合って本気で環境を整えていくことが大切だと思います。「魅力ある労働環境」は、会社は違えども建設業にたずさわるものの共通の目標です。（大成ロテック社員組合の組合員の方より）

編集後記

松本前議長から山下新議長へ交代し、新体制となった道建労協、改めて「モノづくりを通じて社会に貢献し、魅力ある道路建設産業を実現する」という基本理念を胸に、活動がスタートしました。また、政権交代から2年、民主党からは3代目となる野田新内閣が発足しました。あるメディアの調査によると、支持率は60%を超えとか。今回の首相交代劇は民主党の半ば自己否定の印象を受けましたが、道建労協はブレることなく目指すものに邁進し、四半世紀の歴史を持つ道建労協に新たな1ページを重ねたいと思います。

前田道路労働組合 服部栄三

〈応募方法〉下記を明記してお送りください。正解者の中から抽選で粗品をお送りします。たくさんのご応募をお待ちしております。

- 解答 ●住所（会社宛の場合は会社名もご記入ください）
- 氏名 ●所属単組名
- 今回の紙面でよかった点、気づいた点がありましたらご意見も是非お寄せください。
- 締め切り 10/30（金）
- 宛先 〒141-8665

東京都品川区大崎1-11-3 前田道路労働組合内
道路建設産業労働組合協議会『PAVE』宛
FAX 03-5487-0051
E-mail:kumiai@maedaroad.co.jp

※次号は1月発行の予定です。